

— 東京理科大学 —

2月4日 B方式 英語

解答・解説

1

- (1) 4 (2) 1 (3) 3 (4) 4→5→2→3→6→1 (5) 4 (6) 4 (7) 3 (8) 3 (9) 4
 (10) 1 (11) 1.1 2.1 3.1 4.1 5.2 6.3 7.3 8.2
 (12) 1 F 2 T 3 F 4 F 5 F 6 T 7 F 8 T 9 F 10 T

(1) keenly 「鋭く、鋭敏に、強烈に」近いのは strongly 「強く、ひどく、強烈に」

(2) by 「...のそばで」

(3) drown[au] 下線部をカタカナ表記すると「アウ」という音。couch は「長いす、ソファ」

(4) 下線部(4)を含む1文を詳しく見てみると...

The higher the seas rises, ⇨ここまでが従属節

The less food we can grow,

the fiercer storms will be

and

the smaller the human population will become. ⇨and が3つの主節を並列させている。

「海の水位が上がれば上がるほど、我々が育てられる食べ物が少なくなり、激しい嵐が生じ、人口が減ってしまうだろう」

(5) 空欄を含む文(In the short term... 「短期的視点において...」)と、次の文(In the long term... 「長い目で見れば...」)は、同じ内容の言い換え。In the long term...の文の動詞句 depends on に注目。同意の relies (upon)が妥当。

(6) gauge[eI] 下線部をカタカナ表記すると、「エイ」という音。vague は「あいまいとした、漠然とした」

(7) 下線部の意味は「今日の氷原は、箇所によっては厚さが3キロ(およそ2マイル)にもなるのだが、およそ20,000年前の氷河期に形成された。そしてそれがまだそこに残っている理由は、形成時から今までの平均気温が氷原を溶かすほどには上がっていないということである」

1は before the last ice age 「氷河期の前」が誤り→氷原が形成された「後」から今までにおいて、気温が高くなかった...なら正しい。

2は「20,000年前の平均気温が今より高く、そのことが3キロの厚さの氷原の形成につながった」という意味になってしまう。

4は最初の文の three kilometers が比較級 thicker の前に置かれ、「差」を表す副詞になってしまい、「現在の氷原は20,000年前よりも3キロ厚い」といった意味になってしまう。

(8) 下線部 for が成す句が、その直後の to melt(不定詞)...の意味上の主語になっている点に留意。

- (9) to raise...以下が、前の sufficient を修飾する副詞的用法の不定詞句。levels sufficient to raise the temperature past this warming limit で「この暖かさの限界を超えるほど、気温を上げるくらい十分なレベル」
- (10) unreasonable 「〈物・事が〉不合理な、筋が通っていない」近いのは irrational 「〈行為・考え方などが〉不合理な、ばかげた」
- (12) 1. 第 1 段第 2 文より。1.の文中における positive 「肯定的な、好意的な」というのはおかしい。
 2. 第 3 段第 1 文の内容と一致。
 3. 第 4 段第 3 文が該当箇所。「水位が大いに増せば、私たちの生活を変えてしまうだろう」言った内容なので、3.の文中の unlikely はおかしい。
 4. 第 5 段第 1 文のコロン(:)より後。異なるポイントは、本文→the vast sheet of ice covering continents and floating on oceans 「大陸を覆い海に浮かぶ大氷原」に対して、選択肢 4.は the vast ice sheets that cover a floating mass of ice 「漂う氷のかたまりを覆う大氷原」
 5. 第 6 段第 1 文が該当箇所。海水の量が増える理由として挙げている内容が異なる。
 6. 第 7 段最終文の内容と一致。
 7. 第 8 段最終文が該当箇所。本文中の any ice...と選択肢 7. 文中の insufficient が内容的に合わない。
 8. 第 9 段第 2・3 文の内容と一致。
 9. 第 11 段第 2 文 but 以下 a small part of...とあるのに(if 節は「わずかな部分でもと溶けてしまったら...」といった内容)、選択肢 9. 文中では entirely という語を用いている(「全部が溶けたら...」といった内容になってしまう)。
 10. 第 12 段第 2 文の内容と一致。

2

- (1) 3 (2) 2 (3) 3 (4) 2 (5) 3 (6) 3 (7) 4

- (1) It が形式主語、is accepted が動詞(受動態)、that 以下が真の主語という構造。
 (2) 文全体の述語動詞が are、つまり主語は複数形である。
 (3) 空欄の直前 of に注目。前置詞の後なので目的格。人を表している(先行詞は the new professors)。
 (4) interesting 「興味深い」という意味。前の very が副詞で形容詞 interesting を修飾。
 (5) 否定文なら so を用いた 1 の選択肢の形が好まれる。
 (6) 「フィンランドもまたそうです(寒いです)」and の前が be 動詞の文であることに着目。
 (7) 空欄には、文全体の述語動詞が来ることを押さえる。3 lives だと主語は単数名詞ということになってしまう。主語は「世界中の 10 人に 9 人は」複数扱い。

3

a. 4 b. 5 c. 1 d. 2 e. 3

a. reserve 「O を予約する」

b. use 「O を使う」

c. accept 「O を受け入れる」

d. expect 「O を期待する」

e. prohibit 「O を禁止する」

4

(1) even (2) fast (3) major (4) saw (5) touch

(1) 上が形容詞「〈数が〉偶数の」 下が副詞「[比較級を強調して]さらに、なおさら、いっそう」

(2) どちらも形容詞。上が「速い」 下が fast food は「ファーストフード」

(3) 上が動詞「専攻する」 下が形容詞「主要な」

(4) 上が動詞 see の過去形。 下は名詞「のこぎり」

(5) 上が名詞「接触」 get in touch with ～ 「～と連絡をとる」 下は動詞「O に触れる」

総評

1 読解総合問題

レベルは昨年度・基礎工学部の長文問題と変わらない。特にひねった問題もないので、落ち着いて解き進めてほしい。一つ難点は内容一致問題(12)が一つ一つの選択肢について、正誤を判定しなければならないところ。「正しいものを〇〇個選びなさい」といった出題とは異なり、1~10の正誤にそれぞれに対して配点が施されているものと思われる。その意味では配点は大きいであろう。該当箇所をしっかりと確認して(読んで)正答数の向上を目指したい。

2 短文空欄補充(選択式)問題

こちらも昨年度と同形式・同レベル。平易な問題。取りこぼすことなきよう心がけたい。

3 会話文空欄補充(選択式)問題

こちらも昨年度と同形式・同レベル。やや易しいくらいか。全問正解は十分可能。

4 同綴異義語(書かせる問題)

こちらも昨年度と同形式・同レベル。

～全体を通して～

理工や理学部を「真剣に」狙う受験生にとっては、かなり易しいと思われる問題。気を抜かずケアレスミスのないように進めたいところ。

基礎工学部を第1志望とする人や比較的英語が苦手な受験生は、過去問演習に基づき【大問1の長文問題に、十分時間をかけられるように問題全体の時間配分を前もって決めておく】ことが大切です。大問1を最後に回して、他の大問を〇〇分で終わらせて最後の大問1に△△分残す…といった事前のシミュレーションの有無が、実際の英語力と同じくらい重要になってくるかもしれません。